河合塾

● 第3回全統共通テスト模試から見直しておきたい問題

【 問題 】

第1問（論理的文章） 問5 本文の論旨を踏まえて傍線部の理由を答える問題

【 ポイント 】

正解:④

〇本文の主題を意識して解答を選ぼう

単に傍線部の理由が問われているだけであるかのように見える設問ですが、傍線部が本文末のいわば結論ともいえる段落にあることを考えれば、本文全体の論旨が問われているのではないかと推測できます。そしてこの問題では、リード文（前書き）で筆者が大学教授であることが示されており、筆者は本文全体を通して、大学にもネオリベラリズムが浸透してきており、そのせいで大学がおかしなことになっているということを指摘しています。したがって、ネオリベラリズムの問題点（＝数量化や競争などを強いること）についてきちんと説明されている④が正解になるというわけです。傍線部の前後だけを読んで安易に解答を選ぶのではなく、本文全体の論旨を意識して解答を選ぶことを心がけてください。

【 問題 】

第2問（文学的文章） 問6 本文中の表現の特徴や効果などについて答える問題

【 ポイント 】

正解:②・⑥

〇表現効果について問う問題に慣れよう

本文中にある特徴的な表現を拾い上げ、その表現がどういう意味をもっているかを答えさせるという設問です。この種の問題が苦手だという受験生も少なくないようですが、もし苦手だというのなら、演習を繰り返し、苦手意識を克服するべきでしょう。同じようなタイプの問題は、共通テストの前身であるセンター試験時代から頻出しています。必要ならば、センター試験時代の過去問を解くなどして、演習を繰り返してみるようにしてみましょう。

【 問題 】

第3問（資料問題） 問4 「メモ」の内容として誤っているものを選ぶ問題

【 ポイント 】

正解:①・⑤

〇問題全体の「設定」を意識しよう

共通テストの「国語」第3問は、生徒の行う「言語活動」を問題上で擬似的に再現するというスタイルになっています。したがって、その「言語活動」がどのようなものとして〈設定〉されているのかを確認することが、まず第一に重要になります。この問題は、「Kさん」という生徒がまずレポートの「下書き」を作り、さらに「資料」の内容を踏まえ、レポートを完成させるために必要なことや反省点・注意点などを「メモ」として書き記した、という〈設定〉になっています。このことをきちんと意識したうえで各選択肢を検討すれば、「下書き」の内容に反することが書かれている①と、「資料」の読み取りという点で誤ったことの書かれている⑤が 「適当でないもの」だと判断できるはずです。とにかく問題全体の「設定」を意識することを心がけましょう。

©Kawaijuku Educational Institution.

河合塾

● 第3回全統共通テスト模試から見直しておきたい問題

【 問題 】

第4問 問4 複数の古文を並べて考えさせる問題

【 ポイント 】

正解:（ⅰ）④ （ⅱ）③

共通テストでは、複数の古文を並べて考えさせる問題が頻出します。本文として最初に2つの古文を並べることもありますし、今回のように設問に本文とは別の古文を引用し、本文との関わりを問う場合もあります。特に後者では、古文を引用する設問に、生徒が教師や他の生徒と会話する場面を設定するなど、特徴的な設問形式を設ける場合が多いです。そのような設問は、特に難問になるというわけではありませんが、慣れていないと少し戸惑うかもしれませんし、何よりも他の設問に比べて読む量も多く、時間をとられがちです。心構えなく本文を読み、設問を順番に解いていって、最後にこのような時間のかかる設問に遭遇すると、焦ってよく考えられないということにもなるかもしれません。今回は、設問に引用されている古文が2つもあり、それぞれある程度の長さがあったので、問4にかなり時間がかかったのではないかと思います。実際に、今回の問4の（ⅰ）は正答率も低かったのです。このように、出題のしかたに特徴がある試験の場合、事前にどれだけ形式練習をしたかが大きく関係してきます。あらかじめ練習を積んで、各設問にどれくらい時間がかかり、どのような手間がかかるかを経験的に確かめたうえで、本番に臨むようにしましょう。

©Kawaijuku Educational Institution.

河合塾

● 第3回全統共通テスト模試から見直しておきたい問題

【 問題 】

第5問　問6　返り点と書き下し文の問題

【 ポイント 】

正解:①

問6は、返り点の付け方と書き下し文の組合せを答える問題（共通テストではほぼ毎年出題されているもの）で、正答率は約5割でした。再読文字「須」（須（すべか）らく～べし）と「所」の用法を押さえれば正答することができたのですが、「須」の読みを誤って「須（すべか）らく～んとす」とした誤答が目立ちました。次に「所」の用法については、傍線部の「所得之道」の部分が「所動詞之名詞」の形となっており、「動詞（する）所の名詞」と読むルールにしたがって「得る所の道」と読むのが正しかったのですが、誤答した原因には、この「所」の用法に注意することなく選択肢を選んだことも考えられます。本問のような書き下し文を答える問題は、訳してみて意味が通るかどうかで選択肢を選ぶことも重要ですが、傍線部に用いられている再読文字などの句形や、「所」をはじめとした重要語の用法に注意を向けることも求められます。漢文の基本的な句形と重要語の読み・意味は必ずマスターしておきましょう。

©Kawaijuku Educational Institution.